

阿波市立吉野中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標 学力向上検討委員会構成

「基礎基本となる学力をしっかりと身につけて、生徒一人ひとりが自分の良さを発揮できる教育」

学力向上推進員  
瀧川 靖治

委員 校長:東條みどり 教頭:森脇謙治 教務主任:石田ゆかり  
1年主任・研修主任:瀧川靖治 2年主任・人権教育主事:小西健介  
3年主任:西村真理子 特別支援教育コーディネーター:坂東陽子  
学力向上学年担当:(2年)大塚拓馬,(3年)川人亮

校長  
東條 みどり

○次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や試験結果の分析による到達度の見極め等から取り組み状況を把握する

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算力などの「基礎・基本的な力」については、意欲的に取り組むことができる。 ●学力の二極化が見られる。解決が困難な課題に、根気よく取り組むことができず、あきらめてしまう生徒がいる。	・課題に対し、すぐにあきらめず根気強く真剣に取り組むことができる。 ・タブレットを積極的に活用し、基礎・基本的な知識・技能を確実に身に付けて、学習に対しての成就感や達成感をもつことができる。	・定期テストの達成度6割以上を目標にする。 ・課題解決に必要な補助教材等を準備する。 ・週末課題により家庭学習の定着を図る。 ・一人一台タブレットの活用により、個別最適化を意識した授業を行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や学級活動などで、自分の意見を言える生徒が多い。 ●論理的思考が必要な場面で、筋道を立てて考えることを面倒がり、課題解決に至らない生徒が見られる。	・他者の考えや思いを受け止め、自らの考えを深め表現できる力を身に付ける。	・学級活動や人権学習で、互いの考えを共有し、様々な価値観を捉えられるように、普段の授業で自分の意見を発表する機会を増やす。 ・一人一台タブレットを活用して発表することにより、お互いの考えを共有し、深い学びを構築する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業を大切にし、学校行事やボランティア活動にも積極的に取り組むことができる。 ○与えられた課題を解決するために級友と学び合いができる。 ●自らの課題を発見し、目標を設定して、見通しを立てて学習に取り組むことが苦手な生徒が多い。	・自らの課題や苦手を把握・分析し、分からないことを理解しようと努力することができる。 ・課題を粘り強く考え、取り組むことができる。 ・目標を高くもち、目標達成に向けて自らの課題を解決することができる。	・見通しをもって主体的に取り組むことができる課題設定を行う。 ・振り返りシートを活用して、授業の振り返りを行い、自らの課題を把握する時間を設定する。 ・授業支援アプリを効果的に活用し、生徒間での意見の比較や学び合いの時間を設定する。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

